

研究実施のお知らせ

2026 年 7 月 20 日 ver.1.2

研究課題名

急性腹症に対する Open abdomen management を用いた Damage control surgery の有効性

研究の対象となる方

2016 年 4 月から 2026 年 12 月の間に島根大学医学部附属病院で敗血症性ショックを伴う急性腹症と診断され、開腹手術の治療を受けられた方

研究の目的・意義

手術が必要なショック状態の急性腹症（消化管穿孔など）の治療にあたり、重症であり従来法での手術に耐えきれないと判断した場合は Damage control surgery といって手術を複数回に分割して負担を軽減する治療法があります。その際には腹部開放管理（open abdomen management; OAM）の手法も併用して複数回の手術を実施します。この治療法に関して有効であることは世界中で報告されていますが、具体的にどのような条件で行うべきかなどについてはまだまだ未解決な問題があります。そこで当院で同治療を受けた患者さんの診療情報を解析し、どのような条件の患者さんにとって最も有効であるか調べるために本研究を行います。

研究の方法

カルテ情報から、以下のデータを収集します。

年齢、性別、身長、体重、既往歴、内服歴、病名、手術術式、手術内容、手術日、身体所見、血液検査、レントゲン検査、心電図、CT 検査、治療内容、入院期間、合併症、退院時転帰などの臨床成績に関するデータ

収集したデータを解析することで、どのような条件でより有効性が高いのか、合併症発生リスクとなるのか、などを調査し今後の重症急性腹症の患者さんの治療成績向上を目指します。

研究のために通常の診療に追加して、検査や治療が行われることはありません。また、本研究では、他の機関に検体や情報を提供する予定はありません。また、集積されたデータは容易にアクセスできない PC 内に保管され、セキュリティが設定された環境下で保管されます。また研究以外の目的に個人情報が利用されることはありません。

研究の期間

2023 年 5 月 24 日～2029 年 12 月

研究の公表

この研究から得られた結果は、医学関係の学会や医学雑誌などで公表します。その際にあなたのお名前など個人を識別できる情報を使用することはありません。

研究組織

この研究は次の機関が行います。

研究責任者：

島根大学医学部附属病院 高度外傷センター 岡 和幸

情報の利用停止

ご自身の情報をこの研究に利用してほしくない場合には、ご本人または代理人の方からお申し出いただければ利用を停止することができます。

なお、利用停止のお申し出は、研究期間中における初回受診日から 1 年の間にお願いいたします。それ以降は解析・結果の公表を行うため、情報の一部を削除することができず、ご要望に沿えないことがあります。

相談・連絡先

この研究について、詳しいことをお知りになりたい方、ご自身の情報を研究に利用してほしくない方、その他ご質問のある方は次の担当者にご連絡ください。

研究責任者：

島根大学医学部附属病院 高度外傷センター 岡 和幸

〒693-8501 島根県出雲市塩冶町 89-1

電話 0853-20-2757 FAX 0853-20-2753